

# こんにちは



## 東京理科大学葛飾キャンパスを訪ねて

### 〈はじめに〉

隣の町に大学が来た。筆者の自宅近くの中川堤に上がると、約1 km 下流の対岸に東京理科大学の葛飾校舎が見える。

そして、本年9月9日から12日に東京理科大学葛飾校舎で日本分析化学会第66年会が開催されることになった。そのためか、理科大学工学部の卒業生で、分析化学を生業にしている筆者に「こんにちは」を書いてくださいとの依頼がきた。これまでの「こんにちは」では、大学、研究所等の分析部門を訪ねてその活動状況を紹介するものが多いが、今回は66年会が開催される葛飾キャンパスとその周辺の名所を紹介したい。これまでの「こんにちは」とは、多少趣が異なるがお許しいただきたい。

### 〈葛飾キャンパスの紹介〉

東京理科大学というと神楽坂校舎と野田校舎はよく知られているが、その中間の葛飾区金町駅の北口から徒歩約8分の所に、2013年4月に葛飾キャンパスが新設さ



東京理科大学葛飾キャンパス

れた。

秋も深まった平成28年11月18日、自宅から自転車で中川堤を走ること15分で、葛飾キャンパスに到着した。事前をお願いしていた理科大の葛飾事務部庶務課入試センターの齋藤優介さんが、キャンパス内を案内してくれた。

ここは、葛飾区と共同で先端融合分野の研究をする「学園パーク型キャンパス」として整備されており、理学部第一部応用物理学科、工学部（建築、電気、情報、機械工学科）、基礎工学部（電子応用、材料、生物工学科）がある。教職員は常勤206名、非常勤433名、学部生4235名、大学院生5186名が在籍している。しかし、理学部の化学科、応用化学科、工学部の工業化学科は神楽坂キャンパスに残っている。そのため、今回は化学系の研究室を紹介することができない。

47111 m<sup>2</sup>の敷地内には、中央にキャンパスモールがあり、その左右に研究棟、講義棟、管理棟、実験棟、体育館が配置され、正面には図書館・講堂が見える。キャンパスの周りには塀や囲いはなく、誰でも自由に入ることができ、隣接する「葛飾にいじゅくみらい公園」は、地域住民との触れ合いの場となっている。

約10年前にボストンにあるマサチューセッツ工科大（MIT）を訪ねた時、MITにも大学の周りに塀はなく、誰でも自由に入ることができた。また、校内の建物には、アルキメデスやファラデーなどの科学者の名前が刻まれている。葛飾キャンパスのモールの石畳にも、科学に貢献した人、ノーベル賞受賞者の名前が刻まれている。一昨年ノーベル生理学・医学賞を受賞した大村 智北里大学栄誉教授も大学院時代に理科大で学んだことから、その名前が刻まれている。また、日本人のノーベル賞受賞者の名前もある。どこにあるか探してみるとよいでしょう。

約250 m 続くモールの正面には、図書館（1, 2階）があり、蔵書は約10万冊で、教職員、学生のみならず、葛飾区在住の区民も利用できる。内部は、ゆったり



図書館・大講堂

としており、落ち着いた雰囲気の中で読書や自習をすることができる。この建物の3,4階は座席数600席の大ホールがあり、学会、講演会等に利用されている。

案内していただいた齋藤さんに、このキャンパスでどこがお勧めですかと尋ねたところ、図書館の左右にある「理科大サイエンス道場」と「葛飾区科学教育センター・未来わくわく館」を紹介してくれた。サイエンス道場には、理科大学の藤嶋 昭学長らが開発した「光触媒」の体験コーナー、「研究成果」の展示コーナーなどがあり、ボランティアの在校生が説明してくれた。未来わくわく館には、若いお母さんと一緒に小さいお子さん方が来ており、常設展示室にある空気、水、光のラボで遊んでいた。また、夏休みには、子供達で工作室がにぎわうとのことである。子供達の理科への興味と関心を高める施設として機能し、将来、多くの科学者が出てくることを期待したい。

この日は、翌日から始まる理大祭のため学生さん達はその準備に追われていた。約45年前の学生時代を思い出し、伝統は続いているのだと感じながら葛飾キャンパスを後にした。

#### 〈大学周辺の名所紹介〉

##### 1) フーテンの寅さんの柴又帝釈天と矢切の渡し

京成金町駅から隣の柴又駅で降りると、フーテンの寅さんの映画で有名な柴又帝釈天があり、駅前には寅さんの像が建っている。帝釈天の参道を約5分歩くと、寅さんの実家(?)の「とらや」、川魚料理店、漬物屋、土産物屋などが並んでいる。帝釈天題経寺の山門を入ると正面に帝釈堂がある。境内には、寅さんが産湯を浸かったとされる御神水がある。時間があれば、靴を脱いで帝釈堂内に入り、本堂内の彫刻、大宮殿、すい溪園の庭を見てみるとよいでしょう。

帝釈天を後にしたら、明治の文人墨客が通った「川甚」を右手に見ながら江戸川堤に出ると、正面には「矢切の渡し」、左手には金町浄水場の取水塔が見える。対岸は千葉県松戸市で、伊藤左千夫の「野菊の墓」の舞台として知られている。この江戸川堤は、寅さんの映画にもよく出てくる場所で、環境庁より「日本の音風景100選」に指定されている。また、帝釈天の近くには、「葛飾区山本亭」があり、ここには、大正末期に建てられた和洋折衷の建物があり、東京都の歴史的建物に選定されている。山本亭からさらに5分ほど歩くと、「寅さん記念館」と「山田洋次ミュージアム」があり、寅さんの映画の概



柴又駅前の寅さんの像

要を知ることができる。毎月10日は寅さんの日です。フーテンの寅さんに興味のある方は訪ねてみるとよいでしょう。

##### 2) こち亀の両さん

葛飾区にはもう一つ有名なキャラクターがある。千代田線で金町駅の一つ手前の亀有駅には、「こちら葛飾区亀有公園前派出所」の「こち亀の両さん」である。昨年9月に「こち亀」の連載は終了したが、亀有駅前及び町中には、こち亀のキャラクター像が沢山ある。最近では、台湾や中国からもこれらの像を見に来ている。時間がありましたら立ち寄ってください。お土産には、伊勢屋の両さんドラ焼きやサブレがあります。

##### 3) 水元公園

金町駅南口からバスで7~8分の所に水元公園がある。ここは、自然に囲まれた面積92.2haの都立公園で、春は桜、初夏はあやめと菖蒲、秋はポプラやメタセコイアの紅葉、冬は渡り鳥のバードウォッチング、また、釣りや江戸前金魚の鑑賞が楽しめる。

#### 〈おわりに〉

東京理科大学の葛飾キャンパスは葛飾区新宿にありますが、新宿は、「しんじゅく」ではなく、「にいじゅく」と読みます。年会で訪れる場合、金町駅周辺には、あまりホテルや宿がありません。近くに泊まる場合は、早めに予約したほうがよいでしょう。なお、JR常磐線(東京メトロ千代田線)の金町駅は、都内からでも30~40分で来ることができますので、都内に宿泊してもよいでしょう。

〔環境技術評価研究所 野々村 誠〕